

栄養療法（新技術なし）

文献ID	筆頭著者	発表雑誌	発表年	研究デザイン	目的	対象者	対象数	評価法・項目	介入・暴露	介入の頻度	介入の期間	対照療法	主要評価項目	結果	結論
37028557	Wei BZ	Am J Clin Nutr.	2023	ADNIコホートメタ	オメガ3の効果	ADNI正常コホート(55～90歳)メタナリシス	ADNI 1,135人 メタは103,651人	認知症発症、 血漿EPA	Omega-3 fatty acid supplements are defined as fish oil, omega-3 fatty acid, PUFA, DHA, EPA, or ALA. 上記サプリの自己レポート、オメガ3摂取量、DHAサプリ	NA	NA	NA	AD, MCI, dementia の発症（診断方法はADNIはNINCDS-ADRDAだが他記載なし）	ADNIコホートでは、オメガ3脂肪酸サプリメントを長期摂取した人のADリスクは64%低下した（ハザード比：0.36、95%信頼区間：0.18～0.72、p=0.004）。食事によるオメガ3脂肪酸の摂取が全原因認知症または認知機能低下のリスクを約20%低下させる可能性があることが示唆された。	オメガ3脂肪酸の食事摂取または長期補給は、ADまたは認知機能低下のリスクを軽減するのに役立つ可能性がある。
34605891	Kosti RI	Nutr Rev.	2022	メタ	魚摂取の食生活	NA	サンプルサイズは the Chicago Health and Aging Project から815、NIH-AARP Diet and Health Study の421,309	全認知症発症リスク、ADリスク	魚食、EPA、DHA	NA	NA	NA	認知機能、認知症発症	週2食までの魚の摂取は、全認知症リスクの10% (95% CI: 0.79, 1.02, N=5) の減少と、老後のADリスクの30% (95% CI: 0.54, 0.89, N=3) の減少と関連したが、統計的には有意差なし。魚を週2回以上摂取しても、特にアジア人以外の人々やADに対して大きな追加効果は得られず。この結果は比較的短い追跡期間の研究を除外した後も変わらず。RCTによると、EPA および/またはDHAの補給によって誘発されたEPAおよびDHAの体内状態の変化は、参加者の実行機能にプラスの影響を与えましたが、全体的な認知能力には影響を与えず。	魚食の有効性はアジア人以外では証明されず。
34432056	Wang Z	Nutr Rev.	2022	メタ	Vit B 群 (B ₆ , 葉酸)	認知症の人、正常人	ビタミンB群MMSE低下を評価するのは6,155人 介入が12か月されるのは3,814人、介入短いのは806人 葉酸認知症のない人13,529人	認知症発症リスク、認知機能低下 (MMSE)	ビタミンB群	NA	NA	NA	認知証発症リスク、認知機能低下 (MMSE)	葉酸値が低いこと（ビタミンB ₁₂ またはB ₆ 欠乏症ではない）とHcy値が高いことは、認知症（葉酸：参加者6,654人、OR 1.76、95%CI 1.24～2.50、Hcy：参加者12,665人、OR 2.09、95%CI 1.60～2.74）および認知機能低下（葉酸：参加者4,336人、OR 1.26、95%CI 1.02～1.55、Hcy：参加者6,149人、OR 1.19、95%CI 1.05～1.34）のリスクが高いことと有意に関連。認知症のない50歳以上の人口では、葉酸の摂取量が多い人では認知症発症リスクが有意に低下した(13,529人、HR 0.61、95%CI 0.47～0.78)のに対し、ビタミンB ₁₂ またはB ₆ の摂取量が多いと認知症発症リスクは低下しなかった。	葉酸と認知症発症認知機能低下の関連あり。ビタミンB ₆ , B ₁₂ は関連なし
36389063	Akhgarjand C	Front Aging Neurosci.	2022	RCT	プロバイオティクス	mild to moderate AD	90人	Lawton の IADL	プロバイオティクス カプセル「L. rhamnosus HA を含むプロバイオティクス カプセル（各カプセルに1015 CFU プロバイオティクスを含む）」「B. longum R0175 を含むプロバイオティクス カプセル（各カプセルに1015 CFU プロバイオティクスを含む）」を1日2回	1日2回	12週間のサプリ介入	プラセボ（キシリトール、マルチデキストリン、リンゴ酸を含むカプセル1つを1日2回）	Lawton IADL	プロバイオティクスサプリメントでの改善は認めなかった。LawtonのIADLスケールは、プラセボ群と比較し、プロバイオティクス介入群で有意に改善した。(P _{Time×Group} < 0.0001)。プラセボ群と比較して、L. rhamnosus および B. longum の介入によりIADLが有意に増加した(差: 1.05, 95% CI: 0.49～1.61, p < 0.0001, 差: 1.5, 95% CI: 0.93～2.06, p < 0.0001)。	プロバイオティクスでAD変わらず。IADL改善しかし介入期間短い。
36529793	Handajani YS	Neurol Sci.	2023	meta	プロバイオティクス	HC, MCI, Mild to moderate AD	100例未満	認知機能	プロバイオティクス介入ま	ま	12～24週間		認知機能	HC, MCI, mild to moderate ADにおいて、プロバイオティクスにて認知機能が改善。介入法も、プロバイオティクスの方法がまちまち。また、介入期間は12～24週間と短い、また症例数が100例未満の研究が多く、介入した対象も様々。	プロバイオティクスで認知機能改善。しかし対象数、介入期間、介入法がまちまち。